

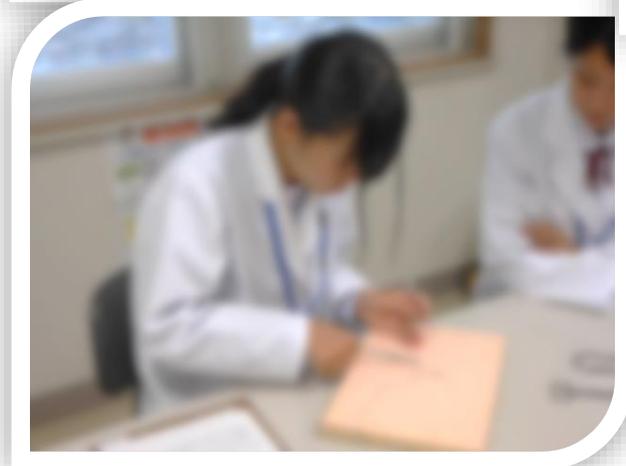
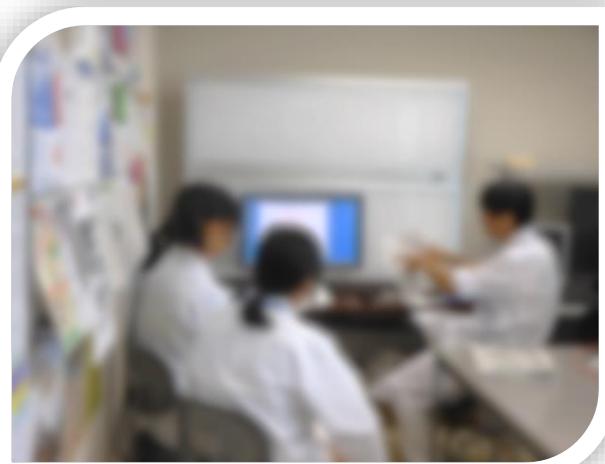
2015年夏

高校生 1 日医師体験 報告集

初回コース : 1 回目参加者用コース

ステップアップコース : 2 回目参加者用コース

ステップアップコース : 3 回目参加者用コース



上 : 病棟医同行後の医師の説明
左上 : 反射(打腱器)体験
左 : 縫合体験

山口県民主医療機関連合会 (山口民医連)

〒755-0005 山口県宇部市五十目山町 15-2

Tel:0836-35-9355 E-mail: kyoritsu@ymg.urban.ne.jp.

ホームページ <http://www.ymg.urban.ne.jp/home/kyoritsu/>

この度は夏の高校生 1 日医師体験にご参加いただきありがとうございました。様子をまとめましたので参考にさせていただけたらと思います。

随時
更新中!



山口民医連

Facebook

QRコード

初回コース（1回目参加者）

病院見学

白衣を着て様々な部署を見学。多職種のスタッフから医師との関わりやコミュニケーションの大切さを学びました。



参加者の感想

- 普段、見るできないような医療現場を見学することができ、貴重な体験となった。
- 医師はいろんな職種の人と関わっており、検査に対してメリット・デメリットを最終的に判断する責任があることを感じた。
- 他職種とのコミュニケーションの重要性を実感し、一人の患者さんに対し一人の医師がサポートするのではなく、病院全体でサポートするということがわかった。
- 病院にはいろんな科があり、患者さん一人を確実にサポートできるような仕組みになっていた。

医師体験

水銀を使った血圧測定体験や聴診器体験、オペ室見学、縫合体験等体験をしました。



参加者の感想

- 初めて血圧を測り、脈拍の音が鮮明に聴こえたときとても感動的だった。
- 聴診器を使って実際に心臓の音を聞いたり、エコーを使って肝臓などの臓器を見ることができ、大変貴重な体験になった。
- 手術室に入ったのは初めてで、感染を防ぐための仕組みなどがわかった。
- 縫合体験では本物の皮膚のような質感の物を使い、糸を結ぶ作業をした。糸を結ぶという作業にこんなに手間をとったのは初めてだった。貴重な体験になった。

一番印象に残っていること

今回の体験で一番印象に残っていることをお聞きました。



参加者の感想

- 今まで技術さえあればなんとかなると思っていたが、多くの人と接する仕事なのでコミュニケーション能力が重要であることが印象に残った。
- 「医療は不確実性だ」という言葉が印象に残っている。医療は不確実だからこそ、医師や看護師さんたちが連携を取り、病院全体で患者さんを一人ひとり救っているのかなと思った。
- どの科の方も今の自分の仕事に誇りを持っているということ。私も将来は自分の仕事に誇りを持ちたいと思った。
- 院内の職種の多様性が最も印象深かった。病院の仕事といえばお医者さんか看護師さんというイメージだったので視野が広がるのを感じ、大変嬉しく思う。

ステップアップコース（2回目参加者）

「地域医療・コミュニケーションを学ぶ」をテーマに実施しました。

宇部山陽小野田の診療圏について

参加者の感想

- 宇部市は山口大学もあり、総合診療医も多数いらっしゃると思っていたが、専門医が多く、開業しても一つの科しか設けられていない診療所が多くあると聞いて驚いた。
- 「宇部地域は医師数は多いが臓器別専門医が多い。」など様々な問題があることを知り驚いた。総合的に診て「振り分け」ができる医師になりたいと強く思った。



コミュニケーション学習会について

参加者の感想

- 「会話は言葉のキャッチボール」というフレーズはよく聞くが、先生の話を聞いてよくわかった。日本人は恥じらいの気持ちが強く、隠そうとするのでそのことに気づけるような医師になりたい。
- 言語的なコミュニケーションと非言語的なコミュニケーションの割合は1:9でいかに表情や態度が大事なのかを実感した。



デイサービス体験

コミュニケーション学習会で学んだことを実践してもらいました。



参加者の感想

- とにかく最初に思ったのはデイサービスの職員の方々の声が大きいということだった。デイサービスに来られている高齢者の方々の生活背景などいろいろとわかるので、それを踏まえながら話をすることは大事だと思った。「待っているから早く医者になってね」と言われたことはとても励みになった。
- 職員の方々は声を大きめにしたり、視線を合わせてり、笑顔で話しかけたりと利用者の方々にとても細かい気配りをされていてすごいと思った。私も細かいところまで相手を気遣えるようにこれから経験を積んでいきたい。

医療生協班会体験



参加者の感想

- 班会に来ていらっしゃる方々はとても元気で身体を動かしたり、頭を働かせることが楽しそうだった。年齢差があったので高齢者と接するときにはしっかりとした予備知識を持っておきたいと思った。
- 皆で輪になってクイズを出したり、手遊びをしたり、「ころばん体操」をしたりすごく楽しかった。参加をされた方々は皆すごく元気で仲のいい雰囲気がとてもよかった。こんな風な機会をもっとつくって笑顔が増えたらうれしいと心から思った。

ステップアップコース（3回目参加者用）

「地域に求められる医師」、「医師の仕事とは」をテーマに実施しました。

地域に求められる医師とは～医療生協理事からのお話～

医師は医療という手段で、人の身体だけでなく、心も救うことができる。患者さんに「安心感」を与えられる医師になってほしい。



参加者の感想

- 「ただマニュアル通り、機械的な対応ではなく、医師として患者さんの立場に立ち、患者さんの話や伝えたいことにしっかり耳を傾ける」ことの大切さを理事さんの話を通してひしひしと感じた。
- 社会にはいろいろな悩みを抱えながら生きている人がたくさんいることが分かり、もっと自分の周りの人だけでなく、視野を広げていけたらいいなと思った。また、困っている人に親しみを持って話を聞けるといいなと思った。

外來見学

参加者の感想

- いつもは患者さんの立場だったのが、そうでない立場で診察を見学することができとても良い体験になった。1人の患者さんがおっしゃった「先生の顔をみると安心できます」という言葉がとても印象に残っている。とても信頼されているのだと感じた。
- 患者さんが痛いなどと言った症状を訴えていると、医師の方は「痛かったね」と患者さんと同じ言葉を繰り返していた。すると患者さんも安心をされた表情をされていた。

病棟医同行



参加者の感想

- 今回は内科の先生と整形外科の先生と一緒に病棟を回ったのですが、科によってこんなに違うのだと感じることがたくさんあった。しかし、どちらの先生もそれぞれに患者さんとしてしっかりコミュニケーションを取られていたのが印象的だった。また、患者さんを治療していく中で、看護師さんなど様々な職種の人ときちんと情報共有し、協力することが大切だと思った。
- 病棟を回る際にどこをどう骨折したのかや患者さんの手術をした後を見せていただいた。また私がなりたいと思っている麻酔科医のことについても詳しく話を聞くことができてよかった。

院内ボランティアの紹介

院内でのボランティア活動に取り組んでいる医療生協理事さんから、ボランティア精神についてお話していただきました。

参加者の感想

- ボランティアは、はじめの頃は人の役に立ちたくてするものですが、逆に元気をもらって自分のためになっているという言葉に共感しました。
- 最初は具体的なことができなくても「笑顔やあいさつ」から。これも小さなことではあるが、ボランティアであるということが印象に残った。



7日間で7校 合計23名が参加!

今後も宇部協立病院の1日医師体験を企画していきますので、
よろしく願いいたします。